

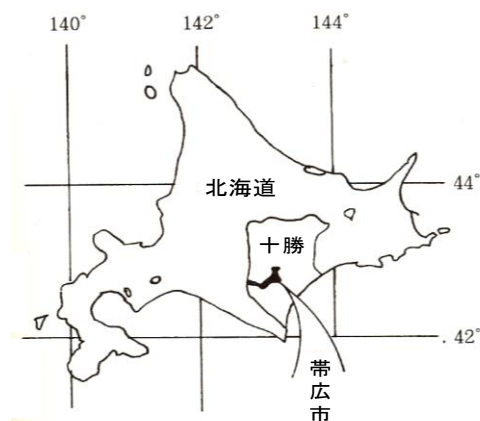
1. 市勢の概要

(1) 地勢

本市は、北海道東部の十勝地方の中央部にあります。緩やかな傾斜の盆地状である十勝平野のほぼ中心部に位置します。東は札内川を境に幕別町、西は芽室町、南は中札内村および更別村、北は十勝川を境に音更町に接しています。市域の約 60%は平地であり他は日高山系の山岳地帯です。

市街地は概ね平坦で街路は碁盤目状に延びています。市街地中央部には帯広川、郊外には十勝川、札内川が流れています。日高地方との境である山岳地帯は、札内川とその支流の戸鶯別川および帯広川の源流域であり、十勝幌尻岳、戸鶯別岳、札内岳の秀峰がそびえています。

三方を山に囲まれた十勝平野は、もとは砂れき地帯の上に火山灰が厚く堆積した段丘の連なりでしたが、長流・十勝川およびその支流により長い年月の間に削られ、現在の太平野が形成されました。



【位置】

極東	東経 143 度 16 分 06 秒	} 東西	46.80km
極西	東経 142 度 41 分 13 秒		
極南	北緯 42 度 36 分 53 秒	} 南北	43.30km
極北	北緯 42 度 57 分 10 秒		

【面積】

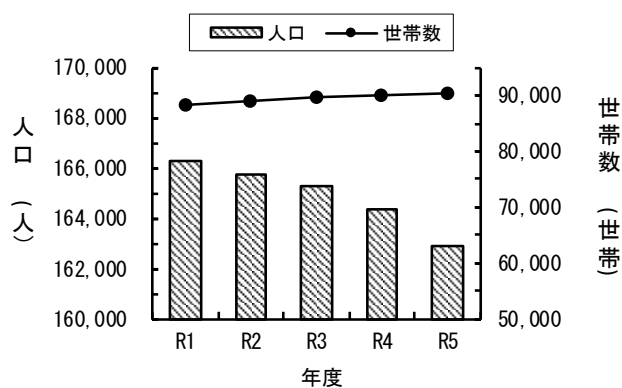
619.34km²

(令和 6 年 1 月 国土地理院)

(2) 人口

本市では、明治 16 年（1883 年）に晩成社が入植して以降、人口の統計が行われています。

本市では人口・世帯数とも年々増加してきましたが、人口については出生率の低下に加え道央圏や周辺自治体への流出により平成 13 年度以降減少に転じ、ここ数年も微減傾向になっています。令和 5 年 9 月 30 日現在の人口は 162,852 人、世帯数は 90,301 世帯となっています。

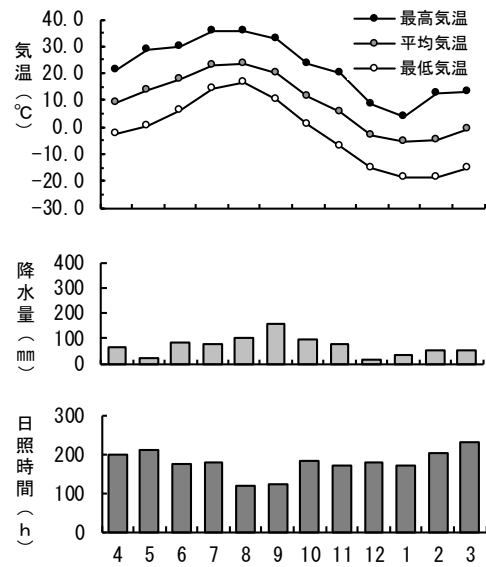


人口および世帯数の推移
(各年とも 9 月末日現在の数値)

(3) 気象

気候は、冷涼で夏は暑く冬は寒い内陸性気候であり、四季の変化に富んでいます。令和5年度の帯広市の降水量は837.0mmで、札幌市の1,093.0mm、東京都の1,498.5mmを下回っています。

また、令和5年度の帯広市の年間日照時間は2,137.9時間で、年間を通して晴天日数が多い、全国でも有数の多日照地域となっています。



月（令和5年～令和6年）
各月の気温、降水量および日照時間
（気象庁データより）

	令和4年									令和5年			通年
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平均気温(°C)	8.8	13.4	18.0	22.8	23.7	20.1	11.6	5.6	-3.3	-5.5	-4.8	-0.9	※9.1
月最高気温(°C)	21.1	28.8	30.1	35.6	35.5	32.8	23.6	20.2	8.2	4.1	12.8	13.0	22.2
月最低気温(°C)	-2.7	0.1	6.0	14.0	16.3	10.2	1.1	-7.4	-15.5	-18.6	-18.5	-15.5	-2.5
月平均湿度(%)	60	66	76	79	85	84	78	70	69	75	69	64	※73.1
月合計降水量(mm)	65.0	21.5	82.5	77.5	103.0	156.0	98.0	78.0	18.0	35.0	50.0	52.5	387.0
月合計日照時間(h)	199.5	211.7	173.8	177.4	117.9	122.8	182.7	170.8	176.9	171.7	201.4	231.3	2,137.9
月平均風速(m/s)	2.9	1.9	1.5	1.4	1.2	1.2	1.7	2.5	2.2	2.1	2.2	2.2	※1.9

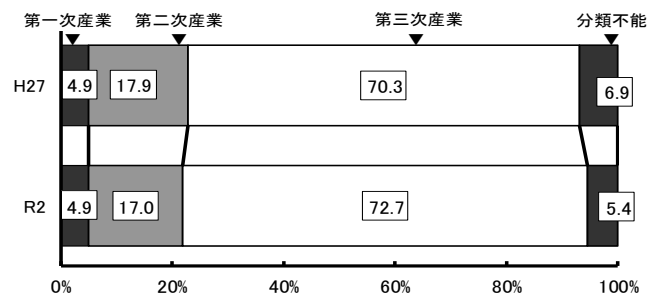
※令和5年1月～12月までの平均である。

（気象庁データより）

(4) 産業別就業人口

令和2年国勢調査による本市の産業別就業人口の割合は、第一次産業が4.9%、第二次産業が17.0%、第三次産業が72.7%であり、平成27年に比べ、第二次産業がわずかに減り、第三次産業は増加しています。

本市は全国平均と比較して第二次産業の占める割合は低いですが、第一次産業はやや高くなっています。また、十勝管内の平均と比較すると、第一次産業の占める割合が低く、第三次産業が高くなっています。



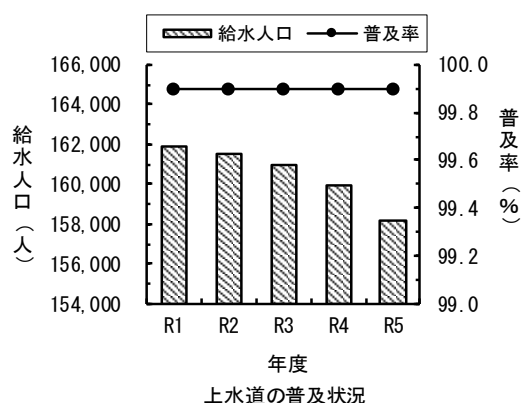
産業別就業人口の構成比
（平成27年・令和2年国勢調査より）

(5) 都市環境整備状況

ア. 上水道の整備状況

本市の上水道事業は、市街地および中島・大正・愛国地区を給水区域とし、令和5年度末で158,215人に給水を行っており、普及率は99.9%となっています。上水道以外の地域については、簡易水道事業により給水を行っています。

市内の上水道は、国内でも有数の清流である札内川を水源としており、おいしい水が市内に提供されています。



＜上水道の普及状況＞

令和6年3月31日現在

給水区域内人口	給水人口	配水管延長	総給水量	有収水量	普及率
158,215 人	158,169 人	1,133.7km	15,604 千 m ³	14,352 千 m ³	99.9%

＜上水道浄水施設の状況＞

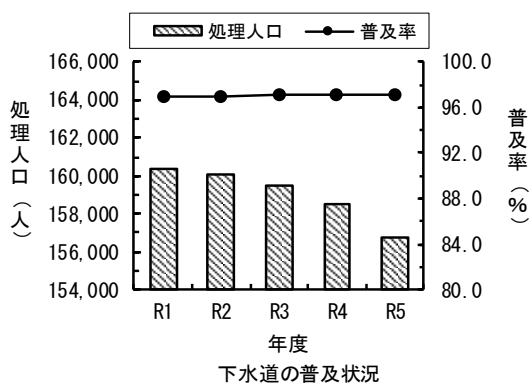
令和6年3月31日現在

施設名	原水の種別	取水水域	実績年間給水量	現行施設公称能力
稲田浄水場	伏流水	十勝川水系札内川	15,604 千 m ³ /年	40,000m ³ /日

※稲田浄水場の実績年間給水量のうち 6,064 千 m³は、十勝中部広域水道企業団からの受水による。

イ. 下水道の整備状況

本市の生活排水は、帯広市の公共下水道(帯広川下水終末処理場)と流域下水道(十勝川浄化センター)の2つの区域で処理されています。下水道処理人口は令和5年度末現在で156,762人、普及率は97.1%になっています。



＜公共下水道の普及状況＞

令和6年3月31日現在

総人口	処理区域		都市計画 市街化区域面積	許可区域面積	整備面積
	人口	普及率			
161,387 人	156,762 人	97.1%	4,262ha	4,367ha	4,328ha

＜下水道終末処理場の現況＞

令和6年3月31日現在

処理場名	運転開始 年 月	処理区域内		処理能力水量	処理実績
		処理人口	処理面積		
帯広川 下水終末処理場	S 42. 11	26,854 人	800ha	22,400m ³ /日	25,085m ³ /日
十勝川流域 下水道浄化センター	S 55. 1	200,154 人 (帯広市分 129,908 人)	6,005.4ha (帯広市分 3,528ha)	105,580m ³ /日	67,297m ³ /日

ウ. 簡易水道営農用水道施設の現況

令和6年3月31日現在

施設名	原水の種別	取水水域	実績年間給水量	現行施設公称能力
大正配水池	受 水	—	202 千 m ³ /年	1,292m ³ /日
川西浄水場	表流水	戸蔭別川	420 千 m ³ /年	2,480m ³ /日
岩内浄水場	地下水	—	24 千 m ³ /年	68m ³ /日

エ. 農村下水道の普及状況

令和6年3月31日現在

事業名	計画区域内人口	処理人口	普及率	計画戸数	整備戸数
個別排水事業	4,109 人	2,256 人	54.9% (126.4%)	500 戸	632 戸
集落排水事業	55 人	50 人	90.9% (98.4%)	63 戸	62 戸

オ. し尿処理施設の現況

令和6年3月31日現在

処理場名	運転開始年月	処理能力	処 理 実 績
十勝川浄化センター 浄化槽汚泥等受入施設	H30.4	170kℓ/日	49,995.7kℓ/年（内帯広市分 6,718.1kℓ/年）

(注) 十勝圏複合事務組合

利用市町村：帯広市、音更町、土幌町、上土幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、池田町、豊頃町、浦幌町、大樹町、広尾町、本別町、足寄町、陸別町

カ. 廃棄物処理施設の現況

令和6年3月31日現在

処理場名	運転開始年月	処理能力	処 理 実 績
くりりんセンター	H8.10	焼却 330t/日 破砕 110t/5h	可燃物搬入量 66,408.69t/年 不燃物搬入量 12,729.05t/年

※焼却処理（110t/24h×3炉）、不燃・粗大処理（破砕設備＋圧縮設備）

(注) 十勝圏複合事務組合

利用市町村：帯広市、音更町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

※令和4年4月から、幕別町忠類地区が加入

※焼却熱による発電施設：発電機出力 8,235kVA（7,000kW）、余熱を利用した蒸気タービン

※灯油燃料の発電施設：発電機出力 2,000kVA（1,600kW）、ガスタービン

キ. ごみ埋立処理施設の現況

令和6年3月31日現在

施設名	供用開始年月	埋立面積	埋立容積	埋立期間	埋立方式	搬入実績
一般廃棄物 最終処分場	H23.4.1	27,029m ²	311,200m ³	15 年間	被覆型 準好気性埋立	14,018.75t/年

(注) 十勝圏複合事務組合

利用市町村：帯広市、音更町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

※令和4年4月から、幕別町忠類地区が加入